

HIBIKI

「これ、明日の午前中に届かへんやろか」
 「おばあちゃん、どこへ出すねん、見してみ」
 封書を手にした局員はあて名を確かめると壁の時計をにらみ「九州やろ、速達にすれば大丈夫やけど、午

響

前中は約束でけへんで」
 「じゃあないわ、ほなら速達やと何ぼやねん」
 大阪の庶民の町・西成区天下茶屋にある小さな郵便局の昼下がり。サンダルばかりの70歳前後の女性と、彼女の孫のような局員とのやり取りです。

マニユアルにない“味”

「ぼちぼちな」なんて会話が聞こえてきます。対話を感じました。だから大きな局では15分くらいで済むような私の用件が、小一時間もかかったのに、不思議に腹が立たなくて。いいですね。マニユアル通りの対応が幅を利かすこのごろです。人と人との景です。【赤松成明】

重度心身障害者の活動の場「ブーセンター・夢飛行」(大阪市西成区)の入所式に出席させてもらいました。印象的だったのは、お母さんたちの表情が明るかったことです。
 夢飛行の常勤スタッフは9人です。午前10時から午

読者 ←

← 編集室

後3時まで、30人を超す入所者の食事、入浴、排せつなどの世話をします。

均質な社会がいい？

い、家に引きこもってしまふ、といます。その介護負担は、家庭、とりわけおまいます。
 「それじゃあ、ダメ。子どもの障害が家族の負担になるなんて」。代表の菅野真弓さんは言います。
 たまたま障害がある。それだけなんです。みんな一人の人間なんです。いろんな人たちが生きている、そ

れが社会です。
 東京都知事の石原慎太郎さんの発言には、どこか、均質な社会がいいんだ、という危うさを感じます。
 ドイツ人こそ最優秀だ、と考えたナチスのように。
 【新社会面編集長・赤松成明】